

日本武道館

所在地：東京都千代田区北の丸公園2-3

竣工年：1964年

改修年：2020年

用途：[改修前] 観覧場
[改修後] 観覧場

建物所有者：公益財団法人 日本武道館

改修設計者：株式会社 山田守建築事務所、株式会社 総合設備コンサルタント

改修施工者：株式会社 竹中工務店、日本電設工業株式会社（電気）、高砂熱学工業株式会社（空調）、須賀工業株式会社（給排水消火）

日本武道館は1964年（昭和39年）東京オリンピックの柔道競技場として、また東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場として、50年以上の時を超えて2度にわたるオリンピックで同一競技を開催した国内唯一の施設である。設計は多くの通信省のモダニズム建築などの設計で知られる山田守。北の丸公園の緑に映えるその外観はシンボリックな存在として親しまれ、「武道の殿堂」として、また「文化発信の聖地」として現在に至るもなお高い稼働率で活用されている。

築後半世紀以上が経過するなか、大道場床、固定客席、耐震補強、各所修繕工事等の維持保全的改修が数度にわたって実施されており、建物維持保全が長年計画的に続けられていることが評価され2007年度（平成18年度）には第16回BELCA賞ロングライフ部門を受賞している。

東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定後の今回の2018-2020年増改修工事において、社会ニーズの変化を見据えた価値向上の考えから、安全性、快適性、バリアフリー性、省エネ性を向上し施設の長寿命化が達成されている。本館アリーナ機能を補完増強する400畳のウォーミングアップ会場を有する中道場棟の増築と既存本館を全面改修し、現代の競技会場に求められる機能性を見事に向上している。シンボリック八角形の大屋根の既存銅板からステンレスへの葺き替えは、屋根の瓦棒芯材木を全面撤去することで、腐食防止、防水性向上を図るとともに、屋根荷重を大幅に軽量化。それにより現代の多様なイベント対応が可能となるようアリーナ天井の釣り荷重に余裕度を与え、舞台装置等の吊りポイントを増設し、イベント機材設置の自由度を高めている。また耐震安全性追加補強部材を最小限に抑えた特定天井基準への適合、アリーナ天井最上部に自然排煙口を設置、コンコースの分割防火区画による延焼防止および2方向避難確保などの避難安全性を向上。さらに設備面では、スプリンクラー消火設備、アリーナ部の小型放水銃の設置、館内換気の効率化、全館の照明のLED化、高効率な空調機器への更新等により一次エネルギー消費量を72%削減し、増築部を合わせた契約電力は従来通りの容量に抑えている。熱源機器では暖房用ガス蒸気ボイラーからガス吸収冷温水機への更新で、冷房熱源の増強とエネルギー源の多様化（電気、ガス）が実施され、発電機の容量も増加されている。

このように、今回のリニューアルにより全体基本性能の向上が適切に図られたことは、運用面においての確実な機能の維持が期待できる。統合的なリニューアルによる日本武道館の一応の完成形をみたように思える。創建当初の意匠を貫く一方、時代が求める機能や性能が変化する中で時代の要請に応えながら、常に変わらず高い品位を守り十分な成果を得ていることを高く評価したい。